

びわ 研修



囲碁ボール決戦後、恒例の参加者集合写真

今年度も平塚市びわ青少年の家(平塚市土屋 2710-1)にて研修を実施しました。この研修は、青指理事会に設置している3つの委員会の一つ、育成委員会が話し合いを重ねプログラムを計画し催しています。各地区で活動する青少年指導員同士の交流と情報交換の場として、笑いがいっぱい空間づくりを目指しています。

10月12日(土)12:00にびわの家に集合しました。「囲碁ボール決戦」「アルミ缶で炊飯したご飯をおにぎりで食す」がこの日のプログラムです。まずは体育館に集まり、5つのグループに分かれて総当たりの囲碁ボール決戦です。試合を重ねるうちにチームワークはよくなり、勝利のために打撃の順番を考え、チームを超えて各地区の活動状況やよもやま話にも花が咲きました。決戦後には、隣接する野外炊事場へ移動。びわ青少年の家の職員から火の取扱いや掃除の仕方等の指導を受けた後、アルミ缶による炊飯をスタート。平塚産はるみ新米をアルミ缶に投入し水を入れアルミホイルを蓋にして時間を楽しみながら美味しく炊きました。炊き立てのご飯に平塚名産品七夕ふりかけで味をつけ、色と香りのたつ平塚製造の海苔で巻いたおにぎりはみな「おいしいっ!」と声をあげました。

この日は17時頃に解散となり星が見えそうな暗がりの中、帰宅の

途につきました。

これまでに、ニュースポーツなどの体験や星空観望会、キャンプファイヤー、宿泊体験など、毎年趣向を凝らして研修会を実施してきました。この研修をきっかけに囲碁ボールやアルミ缶炊飯を体験する機会に至った地区もあるようです。

研修会の日程は初夏ごろに決定します。おおいに笑って、おおいに語らう時空を来年度は味わってみませんか。今年の研修の様子は、広報ひらつかでも取り上げられていて、平塚市HP:広報ひらつかアーカイブからご覧になれます。ぜひチェックしてください。



一打を見守る



アルミ缶を火にかけて沸騰を待つ

浅間 祭



2日目朝の全員集合

11月16日(土)17日(日)秋晴れの2日間、浅間祭が開催されました。噴水エリアではテントを張った出店、音楽団体のステージが披露され、会館内でも展示や体験などの催しがあり、賑やかなおまつりでした。

青少年指導員は、『焼き鳥&つくね』のこばいしい香りを漂わせながら焼き上げ、約2,600本を売り切りました。『パンパンボール』は2日目の午前中に完売。『ミニゲーム』は参加賞の飴などを追加購入して2日目も思う存分子どもたちが楽しめるようにしました。

浅間祭は、青少年会館に登録している団体が毎年実行委員会形式で集い、開催してきました。

今年度も焼き鳥やパンパンボール等を販売しましたが、多くの方にご来場いただき、無事売り切ることができました。来年度も青少年指導員と多くの子供たちが関わり、たくさん笑って「楽しかった」と言葉にするおまつりを青指魂でつくりあげましょう。

笑顔あふれる空間

県市 表彰



式に出席した青指のみなさん

■平塚市青少年健全育成表彰

長年にわたり市の青少年健全育成に貢献した人を称える平塚市青少年健全育成表彰の表彰式があり平塚市長から感謝状が贈呈されました。青少年指導員は13名が表彰を受けました。

■神奈川県青少年指導員表彰

四之宮地区安楽知己さん、金田地区村形伸一さんが表彰されました。

広報委員のつぶやき

二十歳を迎えるにあたって、心からお祝い申し上げます。二十歳という節目の年は、人生において特別な意味を持つものです。自分自身の未来をしっかりと見据え、新たな挑戦に向けて歩を進めてください。これからの人生には、たくさんの喜びや困難が待ち受けています。喜びを素直に受け入れ、困難には前向きに立ち向かうことで、必ず成長できるはずです。何があっても、周りの人々の支えを忘れずに感謝の気持ちを持ち続けてください。自分らしさを大切にしながら、素晴らしい未来を築いていってください。応援しています！頑張ってください！

花水地区 宮田 憲太郎

NO.
142
令和7年3月1日

平塚市青少年指導員連絡協議会 ひらつか青指だより



■編集・発行 平塚市青少年指導員連絡協議会 広報委員会 ■事務局 平塚市青少年課 〒254-8686 神奈川県平塚市浅間町9-1 TEL 0463-71-5950 FAX 0463-21-9738



はたちのつどい実行委員のみなさんとホール前での笑顔で1ショット

はたちの若者へ 青指の仲間みんなへ

平塚市青少年指導員連絡協議会
会長 相馬 喜昭

1月13日、晴天の下、「はたちのつどい」が開催されました。対象者2,528名の内、1,839名が出席し、皆、華やかに装い、久しぶりの友人の姿に笑顔溢れる時となりました。平塚市では毎年約2,500名の若者が、はたちの階段を上ってきています。

そんな若者に伝えたい事、青指が今期二年目を迎えるにあたり、みんなに感謝するとともに大人のあり方を考えてみました。

はたちのつどい当日もお手伝いした私達青指は大人として彼らに何を伝えていけるのでしょうか。思うに自分の年齢から二十歳を差し引いた年齢の分だけ、はたちの若者より経験と言う大きな財産を持っていると言えます。その経験の中で特に大きなものは二つ「人との出会い」「事との出会い」が人生を豊かにしてくれているように思います。

私達自身、人との出会いから青指になり、そんな立場から色々な行事と言う事と出会い、更にそれまで知らなかった人との新しい出会いを経て、豊かさ等を感じているのではないのでしょうか。

そして、自分の事以外に時間を費やす事が、豊かさや幸せに繋がっているようにも思います。人や地域と触れ合う事でお互いに感謝し感謝される事によるものではないでしょうか。青指というボランティア活動している私達こそが伝えられる事かと思えます。

それではどのようにすれば伝えていけるのでしょうか。そのひとつは一緒に活動して良い関係性を持つ事ではないでしょうか。その関係性も程よい距離感、程よい意味でのいい加減さが大切と考えます。決して過ぎない事。過ぎたるは猶及ばざるが如しと言います。

また、人生の先輩である事から、こうなって欲しい、こうあって欲しいと言う思いを強く持つ程、一方的な思いとしか受け取れなくなり、関係性が出来なくなるかもしれません。大切な事は、本人のこうしたい、こうなりたい、こうありたいと言う思いを汲んで上げる事です。相手の言う事に対して「なんかない」と否定語を使わない事です。

はたちのつどい 特集

本人が望んでいるかどうか分からない事を一方的に親切の名を付けて先回りしてやってあげる事も要注意です。

時として相手を不快な気持ちにさせてしまうからです。大切な事は「待つ事」だといえます。なかなか出来ない事です程よい関係性を持つには大切な事です。

以上、豊かな人生には「人との出会い」「事との出会い」を大切に。他者に対して時間を費やすと豊かになる。関係性をつくるにはやり過ぎない。相手の気持ちを第一に汲む。相手の言葉には否定語で返さない。親切とは待つ事を、はたちの若者、そして今期二年目を迎える青指の仲間みんなに私の思いを伝えます。



広報ひらつか1263号(1月第3金曜日号)に青少年指導員の活動の様子が掲載されました。「地域団体と連携し、子どもの健全育成に取り組む青少年指導員。社会環境が変化の中で、各地区が工夫して活動を続けている」と表紙他2頁で紹介されています。



令和 7 年 平塚市はたちのつどい

- 日時 令和 7 年 1 月 13 日
- 会場 ひらしん平塚文化芸術ホール
- 対象者数 2,528 人
- 参加者数 1,839 人

青少年指導員は、受付・総合案内・誘導・巡回・警備のグループに分かれて式典の運営に携わりました。

長嶋 美春

— 実行委員長 —

私は、中学三年生の頃からはたちのつどいの実行委員長になりたいと思っていました。そのキッカケを作ってくれたのはジュニアリーダーの先輩でした。私には、憧れの先輩が 2 人居ました。1 人は 5 個上のお姉ちゃん、もう 1 人はお姉ちゃんと同期の先輩でした。小学 6 年生の時にジュニアリーダーのキャンプに参加し、2 人とも皆の前に立ちまわっていたのを今でも覚えています。私は、中学三年生になり、先輩が実行委員長を勤めていて凄くカッコよくて私も実行委員長をしてみたいと思い始めました。実行委員長になりたくて、はたちのつどいのボランティアに参加していました。そして、遂に自分達の代が廻ってきて無事実行委員長になる事が出来ました。この半年間実行委員会の皆と色々な意見を出しながら当日に向けて頑張ってきました。意見が割れたり、すれ違ったりしてどうしたらいいか迷っていたら皆が助け合ってくれてとても良い仲間だと思っています。当日も皆が笑顔でいられる式典になったと感じております。ボランティアの皆さんありがとうございました。

加藤 みさと

— 副実行委員長 —

はたちのつどい実行委員会、副実行委員長をという大役を務めさせていただいたことは、私にとって大変名誉なことでした。私自身、はたちのつどいをボランティアとしてお手伝いをさせていただいた過去を持っており、実行委員として携わることができることを心から待ち望んでいました。しかし実行委員として活動を行っていく中で、学業や課外活動も忙しくなっている、全ての両立に苦しみ日々が続きました。はたちのつどいを終えた今、約半年間を振り返ってみると、多くの方の支援に助けられて様々な経験を積むことができていくことに気づかされた期間であったと実感しています。同時に私は未熟であることを強く痛感しました。4 月から私はこれまでとは異なる環境で学習を行っていく予定です。自分の未熟さを知っている中で新しい環境は不安が絶えません。しかし、これは新たな一歩を踏み出す時であると信じています。もちろん、笑顔は忘れずに。ここでの経験を抱えながらより成長できるよう、邁進してまいります。

今門 飛勇

— 書記 —

今回、書記を担当した今門です。皆からはピカチュウと呼ばれています。実行委員会をやったかったきっかけとしては、家に届いた情報誌で募集を見て、やってみようと思ったので実行委員をやりました。最初、集まった時は誰一人として知らなかったが、僕から声を掛けたところすぐ仲良くなれて新しい友達ができました。僕は、大学に通っていて、陸上もしていて、アルバイトもしているので実行委員でのビデオレターを撮りに行ったり、ご協賛いただいた企業へ依頼しに行ったりと大変でしたが、その分やりがいがあった僕としての一生の宝物になりました。また実行委員会企画として色々な企画を皆で考えて、一から作ったことも一生の思い出です。

最後に、今年は去年と比べて少ない人数の中での実行委員でしたが、その分協力して行うことができたと思います。当日も大成功で終われたし、皆とたくさん笑いました。そんな実行委員会は最高でした。

大江 千歳

— 会計 —

私たちは、5 月から本格的に活動し始めました。実行委員の活動は思いのほか大変でした。去年の反省も生かして、今までにない企画も提案されました。新しいことにチャレンジした分、うまく話がまとまらないことも多かったです。しかし、はたちのつどい当日、参加者が楽しんでくださっているのを見て、私たちの努力が実ったような気がしました。特に、フォトスポットは実行委員一同で時間をかけて作りあげた力作です。早朝からフォトスポットに並ぶ列を見て、実行委員みんなで喜びあったのを覚えています。

当日は、舞台の上に立つメンバーもいました。私はあまり前に出る機会はありませんでしたが、彼らの堂々とした姿が自分のことのように嬉しく、また誇らしくもありました。

最後に、私たちのかわりに準備片付け、案内をくださったボランティアの方々、そしてたくさんご迷惑をおかけしながらも最後まであたたかく支えてくださった青少年課の方々に多大なる感謝を申し上げます。

山下 慈人

— 広報 —

私がはたちのつどい実行委員をやってみて感じたことは、式典当日を迎えるまで携わってくださった皆様の力が偉大であったかということです。

各企画に参画してくださった皆様の力なくしてあの日の笑顔は生まれなかったと思います。

活動の中で「あったかひらつか」を感じることが出来ました。また、自分がいかに小さく、まだ守られている立場であるかを痛感しました。今は達成感よりも、一人の「大人」として今後求められる姿とは何であるかという新たな問いが自分の中で生まれました。

はたちの節目で終わるのではなく、そこから「新たな一歩」を踏み出せたらと思います。中学時代の恩師から頂いた「暗中模索」という言葉と、はたちのつどいで再会したたくさんの仲間たちとの思い出を胸に、この先もあらゆることに全力で取り組んでまいります。

最後に、ここまで支えてくださった皆様、本当にありがとうございました。

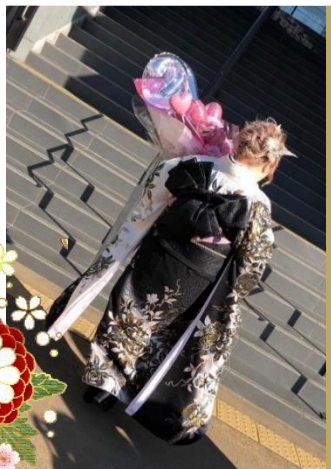
石井 七菜

— 監事 —

私たち実行委員会は、同じ二十歳の仲間たちにとって特別な一日となるよう、話し合いを重ねてきました。今年のテーマは「笑顔満開、新たな一歩」。この言葉の通り、参加者一人ひとりが笑顔で思い出をつくり、新たなスタートを切れる場になるよう工夫を凝らしました。新しい企画にも挑戦し、試行錯誤を繰り返しながら準備を進めてきました。ときには意見が食い違ってもありましたが、それぞれの思いを尊重しながら、より良い形を目指しました。迎えた当日、会場のあちこちで再会を喜ぶ笑顔があふれ、温かな雰囲気にも包まれていました。フォトスポットでは、友人や家族と写真を撮る姿が多く見られ、私たちがこだわって準備したものが参加者の思い出の一部になったことを実感しました。

最後に、式典の運営を支えてくださったボランティアの皆様、青少年課の方々に心より感謝申し上げます。たくさんの方々の支えがあったからこそ、無事に「はたちのつどい」を終えることができました。この経験を胸に、それぞれが新たな一歩を踏み出していきたいと思います。

Mishu Nagashima



Misato Kato



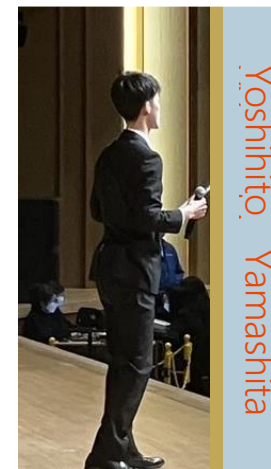
Hiyu Imakado



Chitose Oe



Yoshinito Yamashita



Nana Ishii



はたちのつどい実行委員会 × 青少年指導員

Congratulations to everyone at Hatachi